

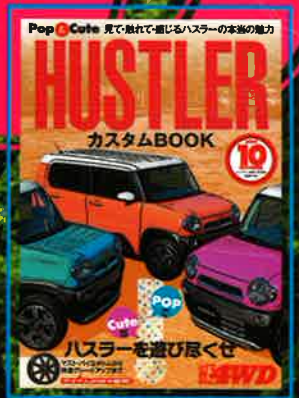
ハスラーを遊び尽くせ! [HUSTLERカスタムBOOK] 別冊付録

平成26年9月5日発売(毎月6日発売)
第24巻40号(通巻第328号)

LET'S
GO

MONTHLY
MAGAZINE FOR
REAL OFF-ROADER

4WD



10 2014
OCTOBER

10年分の愛を込めて
本流ヨンクを完全詳解

ランドクルーザー
70 奇跡の復活!

ナナムシ

まさかの!
ピックアップトラック、国内初投入!



AXCR2014 超速報



激走

FLEX SHOW AIKAWA Racing

New Generation
新世代ランクルの逆襲!



Made in Earth
地球を代表するクルマ、L/Cヒストリー

ATTACK
ON
LAND CRUISER

70系、生誕30周年記念
ランドクルーザー



総力
特集

スペクター・オフロード (SOR) はマーブとケイ・スペクター夫妻がアメリカ西海岸ロサンゼルス郊外、チャッツワースで経営するランクルの部品を専門に扱うショップである。主として扱うのはランクル 40 系から 80 系までで、解体車から再生された中古部品が多い。自社縫製工場もあり、オリジナルのソフト・トップやシートカバーも生産している。マーブが 1981 年に自宅裏庭に置いた海上コンテナを店代わりに、ランクル専門中古パーツビジネスを始め、現在の店に移ったのが 1989 年、2 人 3 脚で 26 人の従業員を抱えるまでに成長させた。

そのマーブ・スペクターが今年 1 月、病で帰らぬ人となった。

昨年から何となく体の不調を訴え、いろいろと検査をしてきたがよく分からなかったという。私も昨年 5 月に会って週末をフレイジャー・マウンテンの山荘で過ごしたが、病の素振りは全く見せなかった。

ドラマは 9 月に始まった。34 回目の結婚記念日はモーターホームを運転し、お気に入りのビーチで過ごした。帰宅後、マーブが変調を訴え、すぐに病院へ。そこでついにすい臓がんと診断される。その後、カリフォルニア大学サンディエゴ校のガン・センターなど「考えられるところすべてに行った」(ケイさん)が治療効果なく、2014 年 1 月 10 日午後、自宅で友人に見守られて死去した。享年 64 歳。

「お葬式は悲しみを増すだけだからやらない。皆を呼んでお別れの会を開きたい」と、ケイさんは悲しみに耐えながら企画を練った。マーブの遺体はアメリカでは珍しく荼毘に付された。

会の開催日が 5 月 4 日(日)と決まり SOR のホームページで参加希望登録が始まった。4 月 29 日の登録締切日までに 382 家族 853 人が申し込んでいた。



進撃のランクル
cruiser's mind

SPECTER OF

TOYOTA LAND CRUISER PARTS & SERVICE

世界一のランクルガイ マープ・スペクターを偲ぶ会

今年1月、ランドクルーザーファンならば知らない人はいないであろう、あのスペクター・オフロードを創り上げたマープ・スペクターが突然の死を迎えた。葬儀に代わって行なわれた「偲ぶ会」には、海外からの参加を含め800人近くが参加した。その偲ぶ会の模様とともに、マープ・スペクターという人物像にも迫ることにしよう。(写真・文・難波毅)



世界一のランクルガイ、マープが大好きだったFJ45Pの前で。2010年4月撮影。

マープ・スペクターを「偲ぶ会」の会場には
悲しさよりも楽しさ、過去ではなくこれから
というムードが漂っていた。

マープの死去の知らせを受け、
すぐに「親分」こと寺田昌弘さん
に連絡をとり、「一緒に「偲ぶ会」
に行こうと誘った。私がマープを
知ったのは1987年の「第1回
ランドクルーザー・ミーティン
グ」であるが、寺田さんはその2
年前からで、日本でマープを一番
古くから知っている人物の一人だ
がある。

5月4日のイベント当日、午前
10時過ぎから続々と参加者が集ま
ってくる。この日は店の南側の道
路が閉鎖され、ランドクルーザー・
オーナーだけがここに駐車するこ
とができた。11時過ぎには市街地
での「Land Cruiser Meeting」の様
相に、あちこちで思い出話の輪が
でき、ケイさんも挨拶に飛びまわ
っていた。

日本から行く前に服装のことを
尋ねたが、「一般的にはスーツ姿
だろうけど、これはマープを偲ぶ
会、アロハにジーンズが大好きだ
った彼のスタイルでやりたい。だ
からTシャツでもカモフラージュ
のシャツでもいい。カジュアルで
来てほしい」という答えが返って
きていた。

すべてが生前のマープなら大好
きだったろうフレンドリーな雰
囲気で進んだ。悲しさよりも楽し
み、過去ではなくこれから、とい
うムードが漂っていた。

「ランドクルーザー、特に時代
を重ねたランドクルーザーのオー
ナーの中では、僕の居場所がここ
に昔からあったような気分であ
る。着いていられた」（寺田さん）。

すべてがマープの温かく、誰に
でも手を差し伸べるホスピタリ
ティの心が浸透した記憶に残る集
まりだった。安らかに眠れ、マープ・
スペクター。



天井に届くほどの高さの棚が整然
と並び大きな倉庫の中を自転車
で走って部品を集めていたマープ。
2010年4月撮影。

ミニールでオフローディング。ご
満悦のマープ。2010年4月撮
影。

Thank you Marv, Rest in peace...



大きな仮設テントの下にはたくさんのテーブルが配置され、ハンバーガーを手にコークを飲みながら、思い思いにマープとの思い出話を交わしていた。



集まったランドクルーザーを見ようと道路に出たケイ
さんが旧友を見つける。思わず駆け寄ってハグであ
いさつ。あちらこちらで同じ光景が繰り返された。



封鎖された道路には次々と参加者のランドクルー
ザーが集まってきた。やはり40系がとても多い。



当日はSORの南側のオズボーン・ストリートは封鎖
され、ランドクルーザーのみが入ることができた。



マーブの旧友であるスティーブ・コビトの「もう一度3人で撮り直そう」という提案で29年後に実現したスリー・ショット。



ショップへの通路にはマーブが集めたコレクションがずらりと並ぶ。その中でもご執心だったのがランドクルーザー消防車。



ここ数年はセミリタイアで、週の後半は仕事をオフにしていた。フレイジャー・マウンテンのお隣さんとビールを飲みながら語り合う時間を楽しんだ。2010年4月撮影。



自宅の玄関前には80と100が4台置いてあった。さらに反対側の通路には70が2台止めてある。どこに何が何台あるのか分からないほどのコレクションだ。



「札幌 LV ま FJ45」という凝った手作りナンバーを付けたFJ45。リアのバンパーは普通のランドクルーザーの丈夫なものが付いていた。寺田さんが潜って調べたら、「溶接で最終メンバーにしっかりと溶接されているよ」との報告。



偲ぶ会が始まる昼近くには、いよいよランドクルーザー・ミーティングの体。道路両側が200メートル以上にわたってランドクルーザーで埋まった。



親しかったロックバンド「スキン・ディープ」がマーブが好きだった曲を演奏して盛り上げていた。



中米から持ち込まれたGRJ76。アメリカではそもそも70系が珍しいうえ、この最新モデルにはたくさんの注目が集まった。4ドアワゴンの人気は高い。



ICON社が2006年にリリースしたICON FJ SERIESのICON FJ44。4ドアボディ、コイルスプリングのサスペンションでエンジンはV8を選べるなどオリジナルとは異なる点もあるが、フロント周りには40系生き写しである。



1962年モデルのFJ40。1962年に500台輸入された中で現存する100%オリジナルの貴重な1台。コロラド州の納屋の中で44年間保管されていて状態はすこぶる良かったという。1年かけて完全にレストアされた。



色とりどりのマーカーで記入されたたくさんのコメント。左端上に書かれたケイさんのコメントは「Marv, What an incredible lifetime we had together! Love you forever -Kay-」



IN-N-OUT BURGERの移動式のハンバーガーショップ・トレーラーでランチボックスを受け取る。このハンバーガーチェーンは日本では無名だがアメリカでは65年の歴史を持つ老舗である。



受付でランチボックスと記念マグカップの引換券をもらって中に入るシステム。参加費は無料、すべて招待であった。